

《生誕 130 年記念展巡回中》

写実の画家 高島 野十郎 画伯

～没後に脚光を浴びた画家と野田市との意外な関わり～

明治 23 (1890) 年に、現在の福岡県久留米市の酒造業を営む裕福な家に生まれた、高島野十郎 (本名・高嶋彌壽(やじゅ)) は、美術系の学校への進学を希望したものの、両親の希望で東京帝国大学農学部水産学科に進む。水産科で魚類を数多く観察し、スケッチした経験で、写実的な絵を描く実践となり、対象物を詳細に観察する姿勢につながったと言われている。大学ではひたすら絵を描いていたようであるが、学科は首席で卒業する。その後、独学で画家への道を進んだ。

ヨーロッパ、博多、東京の青山などを移り住み、70 歳の頃、柏市増尾に小さなアトリエ兼住居を構え、作品制作を続ける日々を送った。

最期まで画壇に属さず、生涯独身を貫き、昭和 50 (1975) 年、野田市の老人ホーム鶴寿園で、85 年の生涯を閉じた。

●昭和 55 (1980) 年開催の展覧会に出品された 1 枚の絵が契機となる

福岡県文化会館 (現・福岡県立美術館) で展覧会「近代洋画と福岡県」が開催された際、「すいれんの池」という絵が展示され、当時ほとんど無名だった野十郎が脚光を浴びる契機となった。当時の学芸員である古川智次氏の目に留まり、その後本格的な調査がなされ、世に認知されるようになる。

●全国 5 ヶ所をめぐる「生誕 130 年記念高島野十郎」巡回展

画壇に属さず、独学で徹底した写実による独自の画境に達した画家として注目を集め、近年ではファンが多い野十郎の、生誕 130 年記念巡回展が 2021 年 1 月から 11 月まで、福岡、奈良、岡山、千葉、群馬の 5 ヶ所で開催されている。千葉県では、7 月 25 日 (日) から 8 月 8 日 (日) まで、柏市市民ギャラリーで開催する。多くの作品を観覧する機会である。

●野田市で收藏する画伯の絵「御苑の大樹」

終焉の地であった縁で、野十郎の没後、鶴寿園に親族から 1 枚の絵画が寄贈された。その絵画は、現在、郷土博物館で收藏している。郷土博物館では、この生誕 130 周年記念展に絡め、令和 3 年 9 月 1 日 (水) から 9 月 27 日 (月) まで、「御苑の大樹」を特別公開する。

問合せ＝広報広聴課・直通 04-7123-1068

代表 04-7125-1111 (内線 2376)

野 田 市